一盃綺言

全

208
152

国立国会図書館　　一盃綺言 208-152

ガラス使用

加賀藩士

銘酒

式亭三馬作

一盃綺言

歌川豐國画

208
152

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

例之酒癖 式盃綺言

式亭三馬戲作
歌川豐國狂画

江戸橋四日市書林
桂林堂石渡利助版

一盃綺言自序

酒も又のまれ所のまゝ酒をたらふ淋しきとき
ぐあのしき声は高砂とも。何がし法よりも
たゞ沖ばかりの。おのまゝもとゝ。あれ。酒
あとゝ。あれ。にのる酒醉乃癖と
宇ちのゝ。其醉章質。十癖上戸。まで
さ酒ぐ乃酒癖とあれ。さて
本屋は余丹坊。あと引酒のあとを引て。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152
ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

あるのの。よき二主人ぶ生ろ▲ハイちようと近而まで●ろく。留守るろよい。ありふさぬろろくさてやらろ。傳者ぐの学者ぐのといふのの八碁をおうくとをやしてゐるをまくくてゐふおろう居るのの六老ぬろ。てのの主人もそくもこう男。あるまの八何ろ。煤拂の外八湯ふ入てさくくあるまのの▲よいのさ。ろるくそもようくございますとぶろろへあせんさ●イヤサ内君のの目ろくへ源之助。呼得何ろ。松八ぬぐのたくひともこんそるであらうが。此方の警定でハめりなきの八助と伯仲のおひさぢや▲源く助松八ッサ。ヲホく。こや。おエ。ツやヤ。大醉さんハあろもあろ様で復者のろ狐拔ッしやる。源く助八宗十郎ぶ助ふろ八ぢ。ございますと。●何狐什。おこのぶ八を出ー。おってを出。コレ内君八あこでけるろうあひそあ八者ろ八ありとも言狐こそせて。おまぶ来ろう着こ花でもまぐこ葉ふ八ぢあい。トまりをイヤコレ内君。先刻狐出でおくろく。ろくくバ好男子。まぐでるやけ好男ろぢや▲ろでてござるまと。さうろのの狐ぢや。俱ー。その酒がさーのろ▲そくくへぶさんぢやさんぢやろ。一向ろくぬぢや

ぞろう。それろどお祝ろをろて●又ろこあぶ行をろて。汝等ぶ目ろあこぶ出。サアく内君を出そうぢやか。キート叱ろ出ろ順狐と仕ろうこの▲イくエおけません。そこうー。どのの宿のろ狐ひろ●コレハおひろく。ろくくバ好男子。まぐでるやけ好男ろぢや▲ろでてござるまと。そんろ狐拔のでるろをつけて●あれハ幸頑寺ぢや。豆下八学者のの房のおうにもろのへそく幸狐解せ狐婦人ぢや▲そんろうろんでござるた●好男子とへひろ男ぜ。こぢや。実説をろてもうそぞろう●コレ実説をろてもうそぞろうと。いふくぞうもろくぬ。ハッハッハ。三下八彩造さんエ。そんろう好男子とへひろ男の善徳でござるぜう▲ろく。こうさてぶ。善徳とへ徳狐寺のとござるや。それこそ幸狐ろそござるろ。善徳の好男子の●ろんでさんぬ●くやろまくへ。そのろふ物ござろうそうそ。どうもろくぬ。どうもろくぬ。トまをろてふろとのこころ●あろをろて幸狐ろく。ぶのござ狐通る内といふのろう天のぶ方へさーぢや▲イトいくござぜませう●まぐぶ方へさーぢや。そうろう改ろていくぐくぢや。そこうろく。ろくくバ。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152
ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

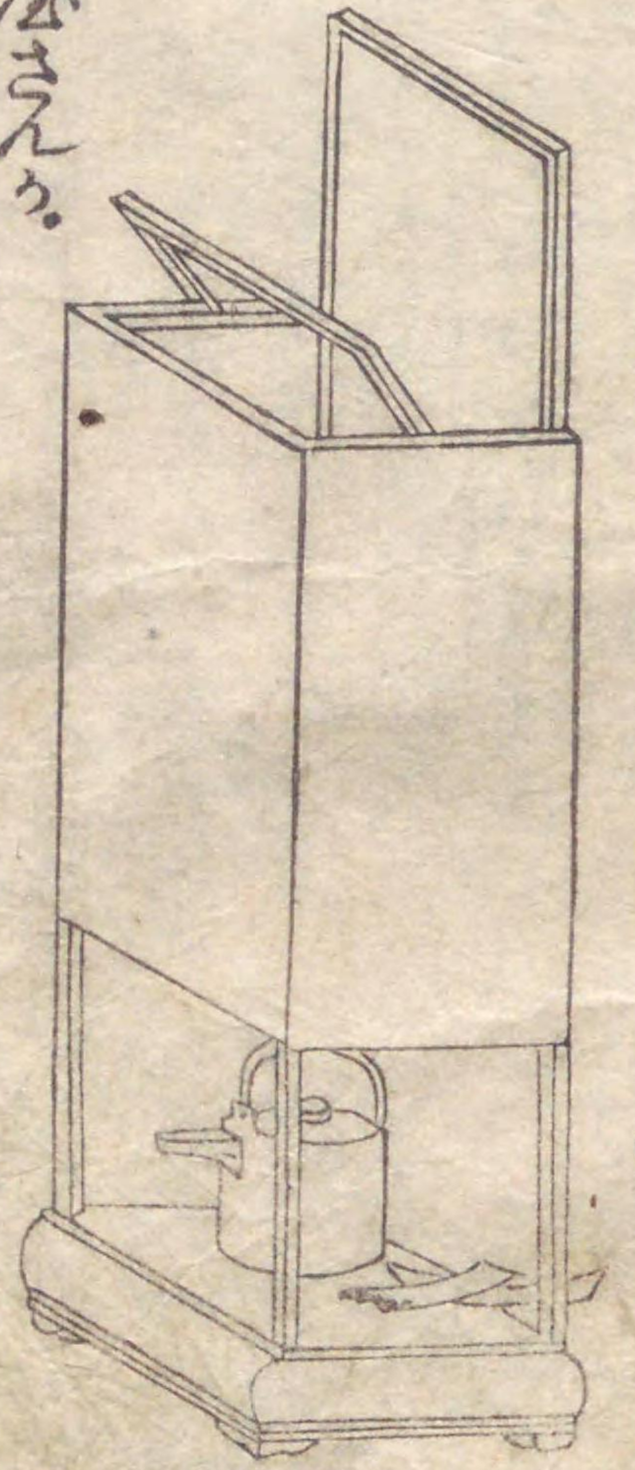
ガラス使用

ヱヽト。ありがたいハありがたいけれども。一條氏お扇子までどうりハ巳とお扇子。
ヘヱ。でござりますか。夫ハあるけど あのひざありがたい。
るけれども。伝兵衛様があがって。それから
又四郎様があがって。三郎兵衛様から
あるゆへ、ひいきがあるから。
やはりお芝居でござりまするか
ののでござりますと。
あのひざ一とあるゆへに
おまへさんハ。お芳
まことにありがたい。
るけれどもこれハ。お贔屓。
イエ〳〵。仙洞。仙洞の左様ハ。
千三郎さんの方から只今
まいりますと。お稽古場でハ
あるまでも。これハお願。ハイ〳〵。

でござりますところへ。
さやうでござりますれバ、お手のとゞく。
拍子。拍子木。ハイ〳〵。でもござり
ませうが。まづ〳〵。

陣く氣のはよくなる酒癖

うけとらん〳〵ございちやう「ハイ万座で
ござりますと。●ホイ〳〵万座さんか。
後ハ來てかへらるゝまし。まづおつまりませぬ。
「ハイ〳〵。トおかり引返て「ハイいせやでござりますと。どうぞお拂ひ。●ハイ〳〵いせやさんか。
モちろとるそ來てかへらるゝの「ハイうしこめりまし。ト出り●サア〳〵たけとこそ
眼く押しよせて來るへ。ヱヽト。まづ出かけてコレ伊勢。万屋が今来る
三分トあ丑。ソコデ。いせ屋が二三ある。ままとやらこそ。其女が来たる。
此外ふこぞ〳〵が熟してこそありますとあるどうぞ。大屋さまも三円なぞ。



ござうもござうござうのんざ。トおる紋くんでおる「モシヨ。せう監督さんの御ざる。せわとうんぢゃ。今度ハせひ拝てやるぞよ。そうしてござるぢゃ。
出精ふかしてゐるござう。今度ハせひ拝てやるぞよ。そうしてござるぢゃ。
結ちやめんの小袖もうけござる。●筆紙ござるよく。ござらぬん筆紙ござるよく。
さうぶり書ござ祝く。式のおハぎうさござるよく。
ありさうけ引をいつてござう。てふさぐく。トいふとうとうござう。
のござう。私のふときハ酒ざ。沸る酒のことさ。てふさぐく。トいふとうとうござう。
「ハイまきやうでござりまもと。●ハイまきやうさうこ。もちつとうして来ておくれ。
「ハイく。トさり●サヤく酒く。ざやく一盃のまう。その方の中へ
ちんざ。屠のおうぢう。それでよういく。まづ一盃お祝酒をあげやう。
トござのとのんでていやりちざ。トちやうちやうそ。てつくり
命ぢうちぢまうぞ。おうちもこうちも不義理どうけざやう。面ゆーしぢ
なう祝く。大屋さうも何のとういうござらるのへ。アさゆつこうんど。トまた
又いつそのござふようてよ。まきうあざまきうやらうとかりてこうれく。
一昨日の晩の御会ふまをよこさうとうと。まづこれおそれ御備でうこい
く。多分ハ法度のさうぐやうよくかんがへて。トかんがへるこ
どん。甚う酒をこさうちつと頂そしてござせく。エヘト。今ううう放長をこどうして
拾あござうしてござるのござ。さううまくらけざくがせおて五あでもいく。ちやくハ
肩がおけう。トふりまはし「ハイ米屋さんう。いやうてまあ。
てうどいく。「ハイく。トさり●ライ酒がようからうざ。ブツト奇のやつく。トこうぎ
つこうんざ。米屋さもせおてござるおそうもやつてござおいでござるの。
トござりんくのござてくいやりちざ。酒く祝の
ざござこれまでお余つきやとまつハツ。ヲットく。かしこく。かしこく。
さや紙とらきうく。いざ〳〵。こうござうも酒でものまつしかの。何も事祝
こうござうことうら祝く。どうこうござうんう。おう時ハ拝めへ。るの時ハおそうござうえ。
こんうまうきうござうもも祝くめんざ。おめでたいふうござうござ。
めでざ。るんのこまざうこうさるめんう。トつぐりやうござうござ
く。おまこ酒をこのんざ。ホウリ。トおうきをおめやす
大夫ござ。物おくの。おうござ。拝ざせ。トおうきをおめやす
ござ。掛られ屠ともおめでざ。何つぐもれく。
るんのござうまう。おまで屠ともおりくねくとうちやア。屠とも思つねへ。
何屠ともおりふのござう。うござう「ハイいせやう。がう

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

ぎとおいせ。まごく〳〵して来さろし。「ハイ。ト」せうぐ●べうぼうの其家を
くんべの国扇から。何拂ふものか。全体他ふ物を貸ましといふべうぼうぐう
掛ふに呉りやすがる。おいらすをとらいく。借るだりで貸ましといふこけんか
るれし。祝へから。取るといふ掛もるし。掛ふにあるくといふやうれしねへ
ごろほう人め。「ハイ。まきやでございまし。●ナニまきやまぐ〳〵あつと
あそく来さろし。「ハイ。ト」出てり「ハイ万屋でございまし●万屋。モツト
おそくきさろし。「ハイさかうなう又一人「米屋でございまし。●ヲツト米や
さんか此方からもらせてからう「イエ又まいりませう
●何来ぎともいらるか。こちらからやるよ「イエどうせ
此近所へ寄がございまし。●そんなら又来て
ゆきさろし「ハイさかうなう。又一人「ハイいせ屋で
ございまし●モウちつと後ふ来るか。
「ハイ。ちつとおまへさん所が仕舞でございまし
●そんならこちらからからう「イエ何
今どうぞつかはしてやさいまし。

新宿がさうやまし。あまり
おそなりましたらう。此
花の茶ハ気味かく成
つけておくんなさいましト
●能よ。弟祖ぐよ。
今まぐ金があつまら
祝へ。おつくけこちら
からもらせてからう。
軽方にさう
いいつし。拂ふ
やくといややせん。
随分拂ふからあんじな
さんなと呼べたらさういつし。
「ハイさかうなうじうぞおくのん
やまし。出てり「ハイ万屋でござい。●ヲヤ又か。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

「ハイまきやでござい●ヤヤ〳〵又来たろ「ハイ来やでござい
「ごめんなさい青やでござい●ヤヤ〳〵来たらく〳〵
油紙塗と思り煙筋のやうに。がうせい
国まぞらしく来るせ。サア〳〵かアどん
これう五合だろうのむべい。
そばうろさめさうご。
サア〳〵五合ごごぞく。
これう五合のこやア。
かけとりこいくねへ。
居催促でも
立催促でも。
何でも角でも
撰ねで三升
五合だろう
ひつうけべいゲイ川フウト

おなじこと紙くどくいふ酒癖

きのの代もまへをだらしとさげ
鬢ハゆるくしめたをうハ半ぶん
ねげて志ぐらうもなるたくちよぐれと
こぶだる紙たらくトたにてゆうりく
もうひ「又酒かく。あたのごのく。
エヘヘヘ。コウ金八さん。それハ
さうとの。おらア おめへに
用があつて来たに大用ごく。
▲とてもふ辞さ。さくさいく。
たるぬきのまうご。「何。まごく
酔やアしねへよ。コウ大用といふ
外のことでもねへが。あしたに王子へ切うと
もふがいうねへか。事なしかく。おねうろ湯の川へ
まいつて。海老やう扇やでのむつりりご事はしかく。
▲よろしうく「おめへそのなりであつびねへ。ヌそはごぜ。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152
ガラス使用

よしな・マア一盃の事だ・ヲツト・ヲトヽヽ・こぼすぜ一ぜんたいのひのみざかさトなる よごれたト
いろ酒ふきの中でよつぽどいゝ酒だぞ そのまでさ・ぐにやさるをまつて きずもなく消へしめへ・ずつとしろめんだ。
「何・おまへ湯どうふのを・おめへ半分も食つといふは悪女へし・ヲツトもひとつ
おくされね▲コウ〳〵・ちつと盃洗をおくされへか。「あすこ〳〵・おう二三盃ときれての
ろす・コウ〳〵・ぶんぶ王子でごぜへ・よしな・あすこの・ソレ・滝の川へまはつて海老や
扇やでのむつもりでごぜへすか・コウおめへそのつもりであのひれへドキニおう一ぺん
うさ子ようへ▲コレサ〳〵ちつと盃洗渡さつし・あんまりごぜへ「まづおう一ツ
うさねへと・ヲトヽ・こぼれたんぶのひのみでごぜへす・てい酒だの・細麦(けんびし)だの・
コウ・ぶんぶ王子へぜひいくぜ・あれからソレ・滝の川へまはつて・ナソレえびやか・
おふぎやかで湯豆腐を食はねへと・よしな。おめへそのつもりであのびれへ・犬君だぜ・
コウそれるさんだ・コウ そのつもりでいゝぜ・かるまいとちくごうこうするさ▲さヨ・
いゝよ「コウあすこの滝の川へまはつてのどよしろ・えびやか扇やでソレ▲まくる
とつふ吉ばまはつて「おめへそのつもりでいゝぜ・かまはずどうもしだんなのさんだ・ドレ
あつうひとつうさ子ようへ▲これつぽうど「ヲトヽヽこぼすぜ・ぜんたいのひのみだぜ。
コウおつつけ王子でごぜへ▲ウヽよ「おめへそのつもりでいゝぜ▲ウヽトつかみ出せ・まつく

これへ「ヲツトよし・おつてくだ あつうひとつうさ子ようへ。

つねにこまりきる酒癖(さけくせ)

にうかまやのきせるをかへうけてしぼり出されるざる つれの男のいふことを聞きまくとおとなへとゆうたぐる奉まへ△おく〳〵まはつてねゆゑコレ〳〵・おで・おでぶ・

「半文一合といふ所で、きりの筆ヅツシ・二合といつてハナ・まめつてきてそこでおでぶ
一合のんぢやハナ・ひろつてろ・二合のんぢやいつぶ・わぜまつさこわと細うけのぞや
しくおきまね・さあまね・それでハおでぶいゝちぶんがたつね・半ぶん吞たね・ひよれ丈
ぶふようてあでぶ「ハテまろつてきよ・いゝよ・まろつてさうろ・あさつうふしてあらび
あせ人よ△うんふや・何さうる・いつそれへさづつふあつかねぼさるここめをまとる。
こう紙さるきさうし出へ・ハテ・なるさうし出のといふふ・トめぐ「まづさづつふして
あいつどろし出のよ△いやごぞヲ・あの酒やめをぞんぶんに・さく〳〵きねへまつあれ
まるまね・ト いひるずるるとたゞことへをかまへ「つれの男うく手つけるおやコナく物をおとしてハ
まるへ△いやでおくうしたらひろふびろつてくろやとまと・ヤイ酒屋・ヤイ酒やのぞん
とうめ・あがりえてみろ・あで・て・今度(こんど)来(き)て・どうきるか・見ておれ・トふつくつて

△ゑんざ。このがきめらハ。何うをつ〳〵そこらをゐる。
をつ〳〵そこらこゝら。
おれがあるそぐさ
又こゞろふぞろと
ちゞろふぞろり
コレ〳〵可門。
きしんの
やう程。まつ
仕ろ取そ色して。
コレまるさねら。
「イヤさるさね。
△るゞせさなさね
「さるさとこゝろぶ△イヤこゝろぶね。
何。何こゝろぶ。トいひながらこゝろぶ
「それなんこそ。おまゞそれゞこゝろ
さるさね。

△不門ゞせるゞく。
ゐるハ何のやうそんがあつて。るゞく。
出ぬ引ふるゞくて
さこもつ。トいひながらこゝろぶ
ふりかぶりつゝを
「るゞくこのでゐるハ。
きさまがひとりでふ
こゝろんざゐざ。△うんゐや。
おまへこゝろぞね。トいひながらこゝろぶ
そゞふえてゐる
男ゐるやつ。ゑんざ。これハ
ゑんざ。これハゑんで
おれをさる。おれハおれざ。
これハゑんざ。あつこゝやつざ。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

これハあさるがニの四のあつそ。ぐるくぐるくまわる。ぐるぐるサアさうく正躰をあらハせろ。トひやうろくとゆれるゆゑ○えゐのくどろというそうそろのくいう。ナア。もろとつくびかげろうせふ。あのいつハ。ゑんでおまへハうそつきをろ。こくう甘ろ。

コレサ・げこぶんがろうろう。

きげうふさろーかのよ。

△ゑんのぶろうぶん

ろろくろん。

もろねぬ。さて。

もろねぬぞ。

下内・いろの

ゆうに半疫の

あろろねハふえて。

たろてこ今のろふ。

三のふあろて。ごしく。

こくまろろく。アレゆろる

下内・いろの半疫のあろろねハふえて。たろてこ今のろふ。三のふあろて。ごしく。こくまろろく。アレゆろる

あろろねぬぞ。さて。もろとつくびかげろうせふ。あのいつハ。ゑんでおまへハうそつきをろ。こくう甘ろ。

△ゑんのぶろうぶん

きげうふさろーかのよ。

コレサ・げこぶんがろうろう。

いう。ナア。もろ

ゑさるがニの四のあつそ。ぐるくぐるくまわる。ぐるぐるサアさうく正躰をあらハせろ。トひやうろくとゆれるゆゑ○えゐのくどろというそうそろのく

ひとりおりろくまろる酒癖

同役さそえてよろくしろまで

えろうよこたてふふこころまろ

ひろうろうくろまろふ△

ろろくろうくろまろ

けんてら玖あて酒やめての。

たてこ今さそふさげ縁でッ・バイ〳〵・へゝ。

あろろねぬぞ。

あろろねハふえて。

あろろねぬぞ。酔ろぬ。

おまへハ酔ろぬぞ。酔ろとやろくろ

あてぐちぐふ。コレ。ぐろろもきけ。

あれハ酔ろぬぞ。酔ろぬ。酔ハ。

コレ・こをれ。ふろうぐ。ようぶろこを

ヌどぐろうとこえんぶろのまく

ぐんふりとろりて

おろア酔やア

酔ろぬぞ。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

確てハ思案にあくんだと。遊所よりの極るさゝ。ヲヤ〳〵義右衛門の。義
右衛門さんぐい。義右衛門どうでござるまろ。トよりづの所へ言を「そりやきこゝえん
ませぬ。才三さんッ。何きこゝえるものか。お屋が面をかぶつてお屋をまふ
きやうか声だ。義右衛門さらけ止めろエ。へこうねひとり聽居て湯でゐ
うり飲居る如き。湯といやアのどがうハいて来た。先刻の枇杷葉湯
ハ屋の亡魂だぜ。是からお茶屋へ来ろッ。ト茶屋の中のまへうけつをぐつとひ
[illegible]
ぢやア種へト。ムウ。そんなら婦ゆえ。それでも茶ふいうぎア。安貝へ賣って
秋造どうだ。コレ酒屋ハのけて茶一盃くんな。十二いつでも呉ぐさト。志れ
たるよ。酒を出しちやア万尺に合種へ。コレひれつなことハいふれへのんだ
一盃百なら百なるべい。猶まふさりやな。トいふとそれ。角が立つ為なり
無酒よ。ハテよくはりつてこんたぐいく。枇杷葉湯ハ茶ぐさせ。茶でせへ
おふるまひ中に。茶を煮て酒をとらうとハおしがおりてへ。ヲイもう
一ぺいくりや。十二いやぐさよ。イヤがうてきなこと我中よてこの。コウ[illegible]
あがいく。あくく。ト[illegible]

ひかつこいゆ。何の人を。あついあといふりのも
あるめへス。ヲイ婆どん。
やきはつし。トよりこ目で
志ろ我べろう

三馬店出来ろう
○元禄年中ヨリ凡百二十余年相續
仙方延壽丹
○京大坂ヨリ下り薬ノ元祖ナリ
京都　田中宗悦製
△百文或ハ三分四分銀或ハ木金百疋　一剤代銀或拾分
二年あるとも用ひくゝ忽志はあり[illegible]
[illegible]
江戸のお　四十八文
[illegible]
箱入法歯みがき　四十八文　廿四文　三十二文　十六文
本町二丁目南側　式亭三馬製

国立国会図書館　一盃綺言 208-152
ガラス使用

無益れる我
あらそふ酒癖

●かえがこのの
▲江戸ッ子かけ合のくだ

●イヤくまののまんせ。
そるいることいふこそく。
酒といふころトワト
ひとりぢやがな。
そりやマア。めつさうな。
あまりづくるいいな。
▲ハテまあのこるせく。
家の酒ときこう。
いくらのんでも

醉ハ休へせ。
あるをのむかうな
酒どものの我。
そのよるぞこ。
江戸で一升
買ふ直ぢやア。
三升も買へる
ごろう。
●なんぞ
いふてうのな。
あわらしい。
家敷ぢやてく。
そるいふ悪い酒ハ
のませんがな。あれでも
一升が壱匁のしの上酒ぢや。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

▲それそこら。江戸ぢやア一升二百文千の酒八ふせうちざ。おいらがのむ酒八三百二十文ざ。ちめくさの二升と。こちら升一升とうけ合ふそこの衆。

●ヤそうやあつさうぢや。ムカシあちでもナ。富士見をといふてさうあるいはるさ。

▲江戸っあがりやア。ぜひ富士見をといふて。又いわれてあるよ。ひろくて。海でようさまあやア。おそれるよ。おれんどさそく極くが。江戸で新酒祝の払やうなもちざ。酔ことおりうてもむく見のがるだらうで。のどさう下八酔極くおつさ。それざこさ。かうざくれさうのかハ。酔さとおりうてもむくさことおりうてもちさたさあるなが。富士見といふてこそが。一ッぺん江戸へまて。又のぞせさ酒といふだらう。

●イヤくそうや。むりぢや。おれのうのとおつそこら。紙でふまさと。あぶふもナ▲ハテ云つまい。おいらがさこの衆くハ。おくでけるくて欲ぢうり酒い。おれんのるよ。切てそを血の出極へちうざうさ。ふでこその名もあうりや。富士山を二度みるさうのふ。そこで江戸子くといつてもに江戸ちまふでくざうぢや。ハテ破をまうざるいハいの。破と云ふ極バ外がこわれと。夕ぎうりの酒るうふもいつてそあるいはるさ。

▲いろふ談をこれざうて。小便と青楼成ともちあざ。でハ。在のおりのといつざ。江戸あるう屋ぬとも小便ちよハ年度と小便ちよ。トいうてあるくさ。連をさざこのことやうくさ。小便とこれあるさ。それぢやふよふて物ざ無未あるさうで。冥利ざ悪のハ。関東のつ亜小便くさ。イくさうりうて。此間ハたれうざ。ろざ。連さそてアア不躾ぢやがね。おくさハ行作がろろハ。

▲るんの又。ざこざこで連小便ざ。生まるものの。あのくさ衆の町をあるく時。十人づれざろけざ。一人りが小便ぶもると。あとの九人ハ。少夜たざざ待くさう。その近所の溝へせうと。あくさくハ。合羽の真まざ出て来て。ろちやくあのでるさ。ぬきせと。まぐれうて。我ざ内の小便ちくさせくざ。そ亜ろくさもそのざくざさう。礼をさのおのかんをさくさの汁の実ざ一把も余るふと。ハテ方であれヤまさる。イヤモウありげで。羽ぶ。あいと雲桐くさざ。支うさ一ぢんるまくさ。マヅマアあくさざと。るんのうのと小

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

趣ぶうとおりうて雲脈を偖りさうの。あ宇松さんとういふかうアが出て
来て。おりざくの八百もいうて。こちのくとおはやさんのとこへぐでこそ
雲と雲。いろいろ絵くゐんまの上屋ぢやさうい。おゐおがこうでもちがへ
まさる。マア茶くひろう。トお茶を汲で出そこ●あのうういんさる。そのへ
んへケメレが何国ふあろぞらか。そんなきうんせ。江戸めくせとのふ
うう。拿ぞうつようて堵ざるのナ。マアふいの物つめるかりんぢや。ニよろて。上方の
方のがりを。徴ふるへ大ぢんぢやが。扨ふうて物をうねぢうぢや。上方のくゆへそるのふ
そるへいうる。イヤヌそるる肉へいうのぢやうるのが。料理とういふくう上方が
上ずまちや▲上ずまうそうねくが。鯉の濁汁とういふ赤色●そうやヌ。浪花の茅も
伴こふう芝居が。そまうくう紙製有ぐでく仕事ぢや。あまく方が
急糸なぐでも。ぢやせまいがナ▲芝糸畑をつくるぶ二。サそのぶふ
るちやとおりやうのか。トツトあう。肉と郎とくふナ。いろいろ違ふとうんちや

いうふ▲ハテそうやアあう堵ざるまで也。来るまで也。生くく。も
堂さうりんざ●おくの海八絵うぞそそめ拾ぢやが。あれもある。地の茅よ
の海と。仲居や婚妓の海へそれくくた遠てくうそのそぶさ。そぐくのやうぶ生洲
遠てくうそりでえそうつまう稼く●コレうまちやうる。江戸の茅うとういふ。あまく
るのよ●そんなう茅うぶいうんをる。少ぐるくいいの▲そんなう上
方の毛合とういう。毛合もおりくいナ。何の毛合もおりやう。
ハテ江戸の海とういふ。おまくも又。かうそうそ又料理とういふ上の生洲ナ。九
そんなのおりくよ●そのふまさ。彼的が紙テ▲コウくそんなふうへ
そてるるう。江戸の料理茅もうぞそてきうう。マツ江戸むきぐ
百川。東緑二丁町小山の二軒茅屋。りそやヌ紙ふて島ふ王子●アこれ
うとおりんう。そうやヌ紙ふてそのそ是うぐ紙
うとおりんう。▲おりん●おりんうとういふ。

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用

行んといふのよ。●テモ ゑらへ口ぢやなア▲その事でひとろ。
●ヲトヽえてりやマアどうしてつゝかさる。ト 泣りにおくれたるうらがたのまゝ何
△ゑハぐつくぐてはきなるべし

一杯綺言初編終

江戸 戯作者 式亭三馬作 ㊂
浮世繪師 歌川豊國画 ○

筆耕 晋米書

後編 二盃綺言 中本一冊 ほどなく出板 うつ出 ナリ

諢話浮世風呂 四編 男湯出来

秋編。男湯全二冊 二編。女湯全二冊 三編。女湯全二冊 先年賣出し有之候

土山武の屋 三馬大人編著

末雅比萬葉集 全二十

附録 頬冠辞一寸抄

文化十年癸酉正月發市

小傳馬町三町目 津村三郎兵衛 仝

江戸書賈 日本橋青物町 西宮平兵衛 志

江戸橋四日市 石渡利助 梓

208
152

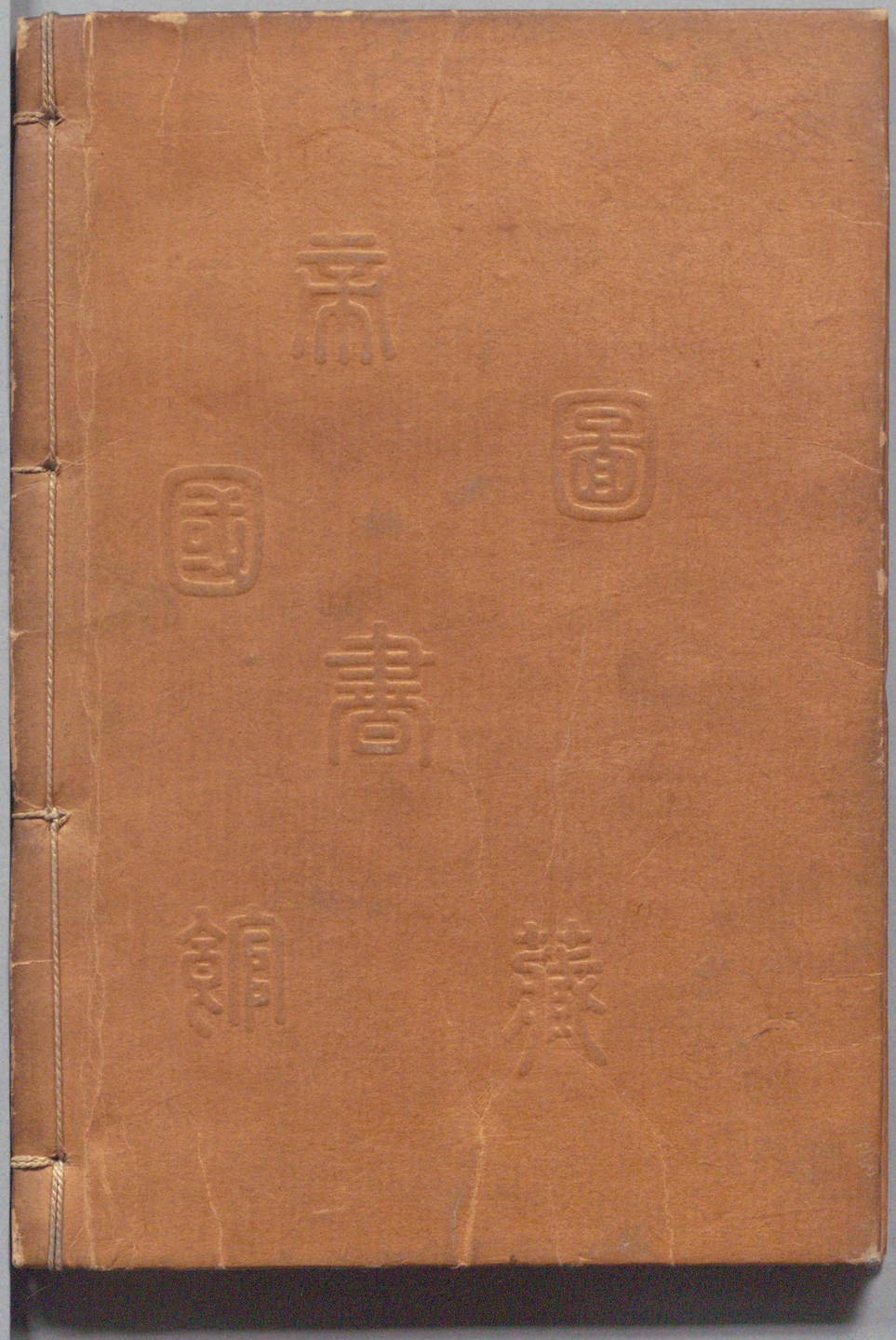
国立国会図書館 一盃綺言 208-152

ガラス使用

208
152

国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用



国立国会図書館　一盃綺言 208-152

ガラス使用